

「アイデアで熊本を元気に」 Kumamoto WISE Special

May 18-19, 2019



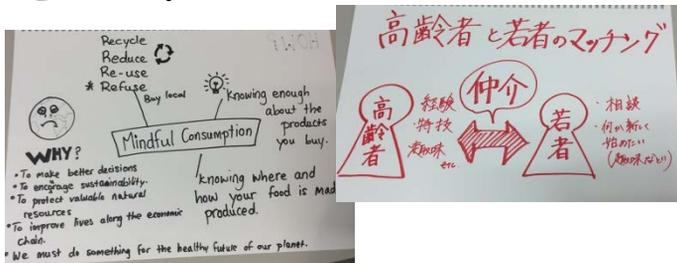
「アイデアで熊本を元気に」と題して、WISEプログラムを初めて熊本にて開催いたしました。甚大な被害をもたらした熊本地震、その被災地である熊本が直面している社会的課題を、アイデアで解決し熊本を元気にしたいという目的で企画いたしました。2日間のグループ作業を通して、アイデアをより具体的なものへ、また持続可能性のある取り組みへ進化させることを目的としました。「このようなモノやサービスがあれば、コミュニティや世界はもっと良くなるはず」……。そのようなアイデアを持ってはいても、起業家精神が根付いていない日本では、具現化するための一歩が踏み出せずにいることが多いのが実情です。“Creating New Social Values for Sustainable Community”をサブテーマに、社会的課題について、起業家精神を用い、解決策を考えながらプロジェクトや事業計画にするためのWISEサマープログラムでは、国内外で活躍する社会起業家や実務家をメンターとして招き、彼らの専門的な知識やアドバイスを織り交ぜながらチームとなって協働することで、「情熱」や「アイデア」をプロジェクトとしてカタチにするまでのプロセス体験を盛り込みました。

「アイデアで熊本を元気に」熊本WISE2019は、熊本県、未来トーク、フミダス、そして the Japan Foundation Center for Global Partnership、Global Givingを通して沢山の方のご支援、ご協力をいただきました。御礼申し上げます。



特にWISEで着目する点は以下の通りです。

1. 何が問題か見極め、定義する力
2. 自分の考えを他者へ伝える力
3. 人を巻き込み、協調、交渉する力
4. 多様な価値観を受け入れ、柔軟に考える力
5. ベストな成果を引き出すリーダーシップ



JSIEでは、リーダーシップを発揮しながらグループの中で協働する力、そして妥協ではなく成果をより良いものにするためにどうしたらいいか判断力・決断力を養うことを目的としています。限られた時間の中で考えをまとめたり、合意を形成したり、どういう役割を誰が担うのか、どういう基準で物事を判断するのか、自分たちで考えて決めていくことが求められます。これによって、困難な状況下や様々な問題に直面しても、最初に何をし、次のステップは何か動きながら考え、そして試すことができる力をつけてほしいと考えます。



チームぴちぴちは大学生による熊本観光プロジェクトに取り組みました。

Kumamoto WISE Special 2019 by JSIE x Kumamoto Prefecture



国内外の活動や途上国事業、起業経験のあるメンターによるセッションとグループワークによって、参加者らはさらにアイデアを進化させます。メンターは、Happy Woman実行員会実行委員長でドリームクリエイターの小川孔一氏。小川氏は女子を中心とした次世代育成メディアや商業施設をプロデュースしたり、企画立案から実現力および人を巻き込む力を駆使して国際女性デー「Happy Woman Festa」の全国展開を推し進めています。



メンターのチュック・ベッシャー氏は、神戸生まれの日本人。3 Minute Inc.のエクゼクティブプロデューサーとして女性活躍応援のクリップを制作。テレビ番組、CM楽曲のプロデュース、政策シンクタンクにも勤めたマルチな視点でアドバイスしました。税所篤快氏は、大学在学中にバングラデシュに渡り、同国初の映像授業（e-Education）をスタートさせ、五年連続で貧困地域の高校生を国内最高峰ダッカ大学に入学させ、世界銀行のイノベーションコンペで最優秀賞を受賞したつわものです。世界を舞台に活躍する税所氏のグローバルな視点に接しました。



地元熊本から「Tomi's Shortbread House」を運営するユキ・ウイルソンさんがメンターとして参加しました。ロンドン、パリの「ル・コルドン・ブルー」で製菓を学びロンドン有名ホテルでパティシエとして活躍。地元の食材を活かした菓子は全国の熱烈なファンと、震災を超えてつながりを広げています。



プレゼンターとして参加した戸上雄太郎氏は、熊本地震を機に「益城町未来トーク」を立ち上げ、高校生から30代の若者世代を中心とした復興支援活動や地域づくり活動について話してくださいました。熊本出身でグローバルに活躍するIbashi.orgの創設者清田氏も出張先のシンガポールからLIVEでインタビューが実現しました。日本語の「Ibashi」を使い「高齢者の居場所」をつくる概念を日本、アジア、アメリカで展開し、各国からそのアイデアを聞きたいと囑望されています。



JSIEのファシリテータからは、「Take an Action」と題して、私たちが身近な社会的課題に取り組むことで社会を変えられる、その行動をとろうという講義から始まりました。どういうアウトプットでどういうインパクトが社会へ与えられるのか、議論の仕方や、VisionとMissionの違いなど講義がありました。また、投資家はどういうところに関心を持ち何を求めているのかについて講義がありました。さらに、自分たちのプロジェクトやアイデアがどれだけ良いものでも、それがうまく伝わらなければ資金や顧客を得ることが難しいため、ストーリーテリングを踏まえたプレゼンテーションの活用について考えました。左写真：Team「Happy Cow」は環境にやさしい商品を消費者に知ってもらおうしくみについて考えました。

Kumamoto WISE Special 2019 by JSIE x Kumamoto Prefecture



2日間のプログラムの間、“Tojiba”は垂玉温泉の新たな価値をどう生み出すか、また“One-nize”チームは高齢者と若者をつなげる熊本発のサービスは何か、活発な議論が行われました。



最優秀賞はくまもんだいチームが受賞しました。小学校で使われるタブレットにAppを導入することも検討しています。.

チームきらきは教育に焦点をあて、子供たちの未来を輝かせる社会を実現するにはどうしたらいいか熱い議論が交わされました。



2019年5月19日、熊本日日新聞の朝刊にJSIEが主宰する「アイデアで熊本を元気に」熊本WISEの様子が掲載されました。



特別ゲストとして、熊本県出身の東京大学名誉教授の黒川清氏が講演し、自分たちの社会を自分たちが行動を起こし、自分たちの力で動かそうとメッセージを送りました。

最終プレゼンテーションでは、当初のアイデアが2日間にわたって集中的に議論され練られた結果、どのチームも見違えるような企画発表となりました。

審査員の視点から投資したいと思うプロジェクト企画を考えたグループに、最優秀賞とアワードが贈られました。最優秀賞に輝いたのは、児童虐待を未然に防ぐAppを考えた「くまもんだい」チーム。痛ましい千葉県の事件をきっかけにイギリスのSPCCを参考に子供たちを守るしくみについてApp利用も視野にいたったアイデアが評価されました。第2位は、大学生が熊本観光体験ツアーを提供する「チームぴちぴち」が受賞しました。JSIEは引き続き、WISEフェローたちのこれからの躍進を見守っていきます。WISEプログラムについては、<https://www.jsie.net/what-we-do/wise-program/>をご覧ください。

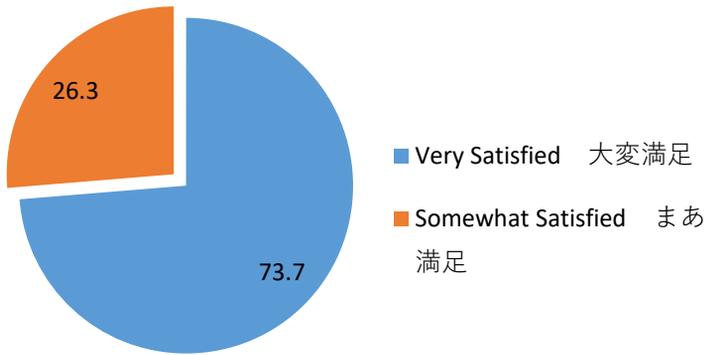
WISEプログラムなどJSIEの活動に関する詳細はこちらをご覧ください。 www.jsie.net



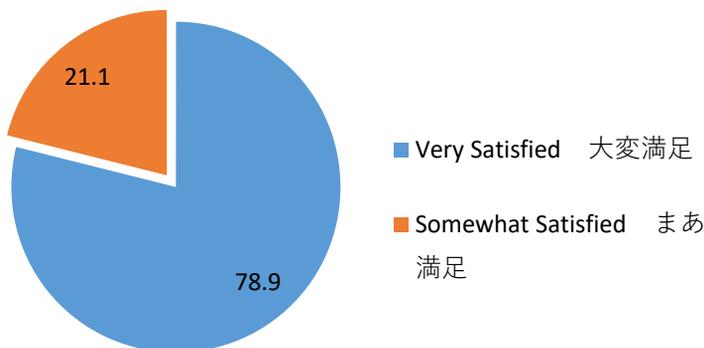


Evaluation Survey Result

1) 熊本WISEの満足度を教えてください。



2) ファシリテータは効果的にわかりやすく説明できていましたか?



Q: 熊本WISEの感想は？

-Meeting so many interested people in the community and being able to collaborate.

-自分と違う畑の方々から刺激をもらったこと 沢山の人と知り合えたこと ポジティブにずっと思考することの素晴らしさを再確認出来たこと。

-何かを吸収、発信しようという多種多様な人たちと発言することを妨げることのない自由な空気感。メンターの方々の言葉の重みと的確さ。

-世界で活躍するメンターの方々の生き方に少しですが触れることができ、仕事への励みになった。

-参加者の皆さんからエネルギーとアイデアをもらいました。メンターの皆さんとの出会いも刺激的でした。

-熊本でこのような機会を設けてくださった事に心より感謝致します。この先の人生でも心の中にあり続けるかけがえのない時間だと思えます。本当にありがとうございました。

-貴重な体験でした。特に日本の若者にとって得るものの多い企画だと思えました。

-これを機に何かにチャレンジしていけたらと思います。また機会があれば参加したいです。

